

会津大学産学 イノベーションセンター

University-Business Innovation Center



CONTENTS

特集

UBICの目指す産学連携

University-Businessの進め	P.2
産学連携プロジェクトにおける「こころざし」について	P.3
会津・福島ヘルスケア・クラスターの考察	P.3
産学連携	P.4

更新システムの紹介

セミナールーム	P.5
---------	-----

産学イノベーションセンター研究開発室から

有限会社 G Clue	P.7
-------------	-----

UBIC-INFORMATION

ご利用案内	P.10
今後の予定	P.11
活動報告／編集後記	P.12



平成15年度
セミナー受講生作品



会津大学産学イノベーションセンター
〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90
TEL 0242-37-2776 FAX 0242-37-2778
E-Mail ubic-adm@ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp

会津大学産学イノベーションセンターのインターネットホームページアドレス
<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp>



UBICの目指す産学連携

University-Businessの進め

経済環境が厳しい中、地域の活性化のために大学に対して産学連携（University-Business）が強く期待されており、その支援のために国、地方自治体からは補正予算、平成15年度の本予算で多額の研究予算が計上され、またコーディネーターの方も増強されています。

このような状況の中で、会津大学は昨年4月より産学イノベーションセンター（UBIC）を開設し、私も 9月から活動を開始しました。産学連携の成果を早く社会に還元することが一番求められていますが、それには大学のシーズ技術を社会にご紹介するよりも、社会ニーズに大学が立ち向かっていくことが必要であると考えています。そこで、会津や郡山の商工会議所などの経済団体にお願ひし、社会ニーズを教えていただける機会を作って

いただきつつあります。

まだ始まったばかりですが、会津地区では(株)野尻金属様からのご相談で金属廃材のリサイクル施設である垂鉛溶融炉の運転効率の改善について議論をさせていただきました。溶融炉の中の真っ赤な酸化物、溶け出した垂鉛とその上の不純物であるノロの様子など、作業現場を見させていただくと(株)野尻金属様が考えている課題が良く理解できました。会津大からは温度計の種類やその付け方などを提案し試していただくことになりました。会津大の先生からは現場の状況が良く理解できて勉強になったとの感想も頂き、仲介したUBICとしても大変有り難いチャンスを得たと考えております。今後の経過についてもご相談に乗って行きたいと考えています。

また、会津大では、今年度の経済産業省の公募型開発事業で、高齢者痴呆症の早期診断と治療を普及させるウェブシステム、在宅介護支援用モニタリングネットワーク技術を開発していますが、その一部の技術は県内の介護施設で使っていただけるような方向で進んでいます。会津大の新しい技術が具体的に社会に還元されて、他との差別化などで具体的に貢献できるまで進める必要があると考えております。

大学の技術の受け皿としては、ベンチャー企業が大切な役割を果たしますが、会津若松市には20社ほどのベンチャーがあり、また今月に入ってから学生ベンチャーの新たな設立の相談を受けています。一方、慶応大学のようなトップクラスでも、大学の特許を基にしてできたベンチャーはまだ3社と聞いており、会津地区の活発な様子がわかります。UBICはこれらのベンチャー企業とも連携し地域経済の活性化にも注力していきますので、是非いろいろな社会ニーズをUBICにぶつけていただいて、社会と大学が連動して発展して行きたいと考えていますので、ご支援宜しくお願ひいたします。

また、福島県ではバイオマスを中心とした環境に合った自然エネルギーを具体的に進める活動が始まり、私も中心的な役割を頂いております。この自然エネルギーはIT技術の会津大には向かないテーマとお考えかもしれませんが、畜産系の廃棄物を扱うバイオマスプラントは安定した運転が難しく、一般の方が運転をするには以前であれば人工知能技術、今の最新の技術であればエージェント技術が有効であると考えています。また、バイオマスプラントと言っても扱う物が、木質、非繊維の果物系、畜産や水産系の廃棄物など、種類・規模により様々な選択肢があります。それを解決するには、CGが大きく役立つと思います。現代は新しい技術を社会に導入する場合の社会合意形成が大変困難で、それに比例するように責任が大きな社会です。そのような時に、新しい技術がどういう社会を作り、それに伴いどんなリスクが増えるかをCGであれば、我々は主体的にリスクを実感しながら選択ができます。



会津大学産学イノベーションセンター
教授 角山 茂章

産学連携プロジェクトにおける「こころざし」について

【政府資金による産学連携のメリット】

最近では政府関係の資金提供も、純粋な研究費というよりも、産学連携の形が条件に入ること多い。参加する企業にとっても大学との連携は、その分野で研究を進めている教授のアイデアを導入できる、大学の設備を利用できる、TLOなどの技術移転のサービスが受けられる、大学の中立性が加わり競合他社とのジョイントも可能、研究資金の税金控除（UBICの場合）などのメリットもいくつかある。この場合、政府資金のプロジェクトでは参加企業が全体金額の1/2を負担するケースが多いが、産学連携であれば1/3の負担で済む場合も多く見られる。

【政府資金系産学連携の制約】

一方、政府資金を中心とする産学連携プロジェクトの形態をとることにより、いくつかのデメリットも生まれる。煩雑な書類提出、資金が後払いの場合が多い、成果物は一旦資金提供機関に属するか開発者との共有となる（あとでライセンスバック）などである。一般的に政府機関の方はあまり権利を主張しない場合も多く、売上が立ってからライセンス料を支払うケースもある。

【なぜ産学連携か？】

参加企業にとってこれらのデメリットを乗り越え、メリットを生かした産学連携プロジェクトを成功させるにはどのような点に注意する必要があるのだろうか。3つの原則をあげる。

原則1. よく研究テーマを絞り込む。企業内の製品部やR&Dでは解決できない問題をテーマにし、企業が持つ得意分野と組み合わせターゲットとする。

原則2. すべて大学にたよらないで、人、物、金、アイデアのいずれかの組み合わせを積極的に提供する。特に研究担当者には、コアの技術を理解しアイデアを発展できる人材を選ぶ。技術移転の仕組みもよく考える。

原則3. 成果物の商品化とマーケットプラン、特許戦略などをあらかじめ考えておく。魅力ある商品に育てるには、R&Dステージから商品レベルまで、リソースを投入する必要があるため用意しておく必要がある。

これらの原理を踏まえて、「こころざし」を高くもって全員でぶつかり合い、協力的に取り組むことが成功の秘訣である。会津大学UBICでは、産学連携プロジェクトの推進や大学における教授の研究とのマッチング、技術移転などのサービスを行っているため気軽に声をかけて欲しい。



会津大学産学イノベーションセンター
客員教授 杉八合 勲

会津・福島ヘルスケア・クラスターの考察

Next Societyの到来

ドラッグーによれば、急速に変化するの経済ではなく、社会である。Next Societyとは、高齢少子化社会、知識社会である。その結果、医療・年金等の社会保障制度、消費者市場の多様化、雇用関係の流動化が起こる。資本の優位性が消失し、資本を如何に使えるかという知識、頭脳が重要となる。つまり希少価値のある知識が資本に取って代わるのである。高齢少子化社会、知識社会、その結果の市場の多様化、雇用の流動化に加え、IT技術の進歩は、企業を新しくNext Companyとする。Next Companyは、小さく、俊敏な企業で、常にイノベーションを繰り返し、連携企業や個人のネットワークを張り巡らし、プロジェクトベースで仕事を行う。

多様化する市場での商品開発

多様化する市場では、顧客は細分化する。マスプロダクションによるコスト削減が難しく、R&Dコストの回収リスクが増大する。高回転の商品開発のため、現場での商品開発力がキーとなる。従来の大企業型組織の優位性が消失する。細分化された顧客規模のため市場は世界全体となる。以上から世界市場を視野にした高回転型のイノベーションによる商品開発を行う、小規模ベンチャー型企業の競争優位性が高まる。

立地優位性

企業の立地は競争性の高い土地に移る。市場が世界だと立地選択も世界となる古典経済学の言う労働力、資本、天然資源は、入手容易で、現在立地には殆ど影響を与えない。立地競争力は、企業に提供する事業環境で生まれる。アイデア、情報



会津大学産学イノベーションセンター
客員教授 田中 伸明

UBICの目指す産学連携

のインプットから製品・サービスを生み出す生産性（製品・サービス/コスト）の高さによるのである。

生産性を決定する4要素

生産性を規定するのは、国、地域の競争環境である。競争環境は4つの因子（面：ダイヤモンド面）、熟練労働力、インフラなどの要素条件、製品・サービスへの地域・国内市場の需要条件、生産性の高い供給産業、関連産業の存在、企業の経営や戦略的立地や競争環境で示される。政策は、この4つの面に、プラスにも、マイナスにも多きく左右する。

クラスターの誕生

生産性の高い地域に、企業が集まる。ネットワーク、提携による地域の生産性向上が促進すればさらなる企業が集積する。特定分野の企業が集積すると、引き続き原料等の供給企業、関連業界、研究所や公的機関が集中する。これをクラスターと呼ぶ。クラスターの形成、育成には、経済機構、経済開発の新しい考え方、政策が重要である。このクラスターの形成が、国・地域の競争力となる。

ヘルスケア・クラスターの可能性

会津・福島では資源（人、施設、金、技術）が限られている。現在の資源を考慮して、特定分野にフォーカスすべきである。高齢化社会はヘルスケア市場の成長が期待される。県立医大、医用工学を持つ日大工学部、医療通信、生体工学分野の強みを持つ会津大学、地域の中核病院、高い高齢者比率は、医療・介護の需要が高いということである。ヘルスケア・クラスターモデルは、検討に値する。

産学連携

ここ数年、文部科学省、経済産業省の主導で産学連携が脚光を浴びるようになった。地域産業の活性化、日本経済の隆盛、あるいは大学の改革を視野に入れたものである。我が家にある1998年11月発行の広辞苑第5版には産学連携という言葉は載っていない。この言葉は新語のようだ。宮田由紀夫著「アメリカの産学連携」（2002年東洋経済新報社）によれば、産学連携の形態には企業が大学に委託研究を行う、企業と大学とが人材交流を含め共同研究を行う、大学の教員が企業のコンサルタントになる、大学の教員・卒業生が研究成果を実用化させるために起業する、大学の研究成果を企業にライセンスする、などがある。

産学連携はいま始まったわけではない。話は30年以上遡るが、東京工業大学の大学院在学中、私の所属する研究室はNTTの研究所から研究費をもらい研究を行ったことがある。また、日立製作所中央研究所の研究者が1年ほど研究生として派遣され、大学の特殊な装置を使って共同研究を行っていた。さらに、およそ20年前、NTT研究所に在職中、私は東京大学に研究を委託した経験がある。委託した内容は時間的・人的制約のため研究所では検討できないテーマであった。産学連携の実態は30年以上前に存在していた。

本学の研究成果、蓄積技術と産業とを結びつける、これが私の使命である。まずは本学にどのようなシーズがあるのかを把握したい。教官諸氏にインタビューすることになるが、教官諸氏においてはご協力いただきたい。同時に会津若松市に限らず福島市、郡山市、いわき市はじめ福島全县のニーズを足で発掘したい。会津大学に限らず大学は敷居が高い、大学が何をやっているのかよく分からない、と巷間言われているが企業訪問、その結果生ずる企業の大学訪問によりこの風評をなくしたいものだ。産業界のニーズに対応するためには本学の研究成果だけでは無理な事例も生じよう。このような場合には他大学との連携も考えたい。産学学連携である。福島県に限らず日本全国、あるいは海外の企業にまで連携の輪を広げていきたい。

今後の大学には教育、基礎研究という大きな使命のほかに実用化につながる研究が求められる。だが、私は本学の教官に実用化につながる研究、換言すれば、産学連携の種のための研究を強いるつもりはない。日頃の研究成果のうちで産業が望むものがあれば産学連携の俎上に乗せる、こういう自然体で行きたい。唯一要求することは産業に役立ちそうなアイデア、成果は学会発表の前に特許で代表される工業所有権を取得していただきたい。私は研究所時代には特許の重要さは頭では分かっていたが、研究所を離れモノを製造・販売する身になって、特許がないために、あるいは他者の特許のためにビジネスをあきらめた事例がいくつかある経験からのお願いである。



産学連携コーディネーター
本杉 常治

更新システムの紹介

セミナールーム更新システムの紹介

会津大学産学イノベーションセンターでは、講習会、セミナーの充実を図るため、セミナールームのシステムを全面リニューアルいたしました。リニューアルしたシステムによって、多種多様な講習会、セミナーを開催することができます。以下に、その概要を紹介します。

1 席数

受講者席は、従来の12席から20席に増席しました。講師席も単独で設置されています。各席には、専用パソコンが配備されています。



2 ネットワーク

セミナールーム内ネットワークはWindows 2000 Server（ファイルサーバー）を核としたWindowsネットワークシステムとなっており、100BaseTXのLAN方式を採用していますので、各パソコン間のデータのやり取り、共有が簡単に実現できます。また、大学ネットワークと連携することにより、インターネットを利用することも可能です。端末最大48接続可能（PCI FMX-48NX インテリジェントスイッチングハブ）。

3 セキュリティ

全パソコンが最新ウィルスソフトを搭載しておりますので、ウィルスなどの外敵攻撃などから自動的にパソコンを守ってくれます。また、講師用パソコンから操作することにより、受講者用パソコンを講習前の状態に戻すことが可能ですので、講習会などの主催側、受講側両方の方が安心して、ご利用できます。
(trendmicro ウィルスバスター)

4 受講者用パソコン

配備数20台。COMPAQ EvoDesktopD510SF/CT。
CPU：Pentium4 2.26GHz、RAM：512MB、
HDD：40GB、DVD-ROM/CD-RW、
OS：WindowsXP Professional
モニタ：EIZO FlexScanL465 16インチモニタ。



5 講師用パソコン

配備数 1台。COMPAQ EvoDesktopD510MT/CT。
CPU：Pentium4 2.26GHz、RAM：512MB、
HDD：80GB、DVD-ROM/CD-RW、
OS：WindowsXP Professional
モニタ：EIZO FlexScanL465 16インチモニタ。



6 ファイルサーバー

配備数 1台。COMPAQ ProliantML350 G2タワー。
CPU：PentiumIII 1.26GHz、RAM：512MB
HDD：36.4GB×4、20/40GB DAT
OS：Windows2000 Server。モニタ：EIZO FlexScanL365 15インチモニタ。



更新システムの紹介

7 プラズマディスプレイ

配備数 3台。EIZO FlexScanP5071
50インチプラズマディスプレイ。1,677万色。



8 書画カメラ

配備数1台。ELMO HV-500XG (E)。
85万画素、プログレッシブ方式CCD。
有効画素数：水平1,024、垂直768、
撮 像 速 度：15フレーム/秒、
フォーカス：AF/電動、ズーム：電動10倍
映 像 出 力：アナログRGB→XGA
NTSC/PAL→Cビデオ/Sビデオ



9 液晶プロジェクター

配備数1台。SONY VPL-CX4。
1000ANSI・XGAモデル。

10 カラーレーザープリンター

配備数1台。EPSON LP-7800CR。



11 アプリケーションソフト(全PC)

- Microsoft Office XP Professional
統合ビジネスアプリケーション。Word (文書作成)、Excel (表計算)、PowerPoint (プレゼンテーション)、Access (データベース) を装備し、幅広い研修に活用ができます。
- IBM/ホームページビルダーVer.6.5
ホームページ編集アプリケーション。ホームページの作成・編集、公開までをステップ・バイ・ステップで操作可能。文字や画像を思いどおりにレイアウトでき、アニメーションからビデオまで動きのあるページの作成も簡単。Webクリエイター養成研修、HP作成研修などにご活用できます。
- Adobe Photoshop Elements
画像編集アプリケーションソフト。プロフェッショナルな品質でプリントデータやWebコンテンツデータが簡単に作成できます。画像編集研修などにご活用できます。
- Adobe Premiere LE
DV編集アプリケーション。DV編集の初心者にも扱いやすく改良されています。各インターフェースウィンドウは自分好みの位置や大きさに変更できるため、使いやすさと効率は格段にアップします。DV編集研修などにご活用できます。
- Expression Tools Shade 6 sprit
3DCG編集アプリケーション。高品質な3DCGを快適に制作するための様々なツールがバランスよく搭載されています。用途に応じて使い分けられる多数のモデリング手法、ニュアンスまでも表現できる多彩なレンダリング機能、様々なシーンを演出できるアニメーション設定により、想い描いたとおりの作品を生み出すことが可能です。3DCG編集研修などにご活用できます。
- その他
下記、アプリケーションソフトも1ライセンス分配備しております。ご要望があればご利用することが可能です。
 - ・ Adobe Golive ホームページ編集アプリケーションソフト
 - ・ Macromedia Flash インターネットコンテンツ制作アプリケーションソフト
 - ・ Adobe Illustrator 画像編集アプリケーションソフト
 - ・ P & A PaintShopPro 画像編集アプリケーションソフト
 - ・ Adobe Acrobat ドキュメント作成アプリケーションソフト

会社概要

設立 2001年8月31日設立
 代表者 佐々木 陽
 住所 開発室 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合134-5 サイトウビル2-1
 研究室 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90番地
 会津大学産学イノベーションセンター内第4研究室
 資本金 300万円
 TEL 0242-22-6162
 FAX 0242-22-6163
 URL <http://www.gclue.com>

Get Clue of the Information



GClue, Inc.

事業内容

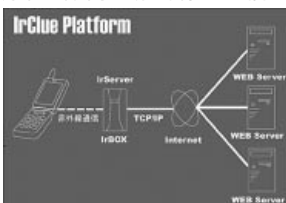
1. 携帯電話向けJavaアプリケーションの研究・企画・開発
2. 携帯電話向けServlet, CGIの設計・開発
3. 携帯電話向けJava、Linuxに関する出版・セミナー
4. Linuxサーバの構築と販売

現在の業務

現在は、主に携帯電話向けのアプリケーションの研究・企画・開発を行っています。最近では、ミニゲームなどのiアプリやJフォン上で起動するJavaアプリの企画・開発が多く、今までに携わった数は60本以上にもなります。その中でも、ユニバーサルスタジオのキャラクターを使用したアプリを公開するサイト、「ユニバーサル☆iアプリ」は、弊社が企画・開発を担当した30本以上のアプリケーションを公開するに至っています。

また、現在までに開発で得たノウハウと昨年認定を受けた福島県エンジェル助成で行った研究開発をベースに、携帯電話向けのコンポーネント商品も販売しています。Clueシリーズでは、主にネットワーク対応のコンポーネントやプレーヤーをお客様に提供し、プログラムを作成しなくても、コンテンツが作成できるプロダクトになっています。

Clueシリーズ

 ClockClue	携帯電話向け時計アプリケーションコンポーネント 
 NovelClue	携帯電話向けノベル再生プレーヤ 
 IrClue	携帯電話向け赤外線送受信ミドルウェア 

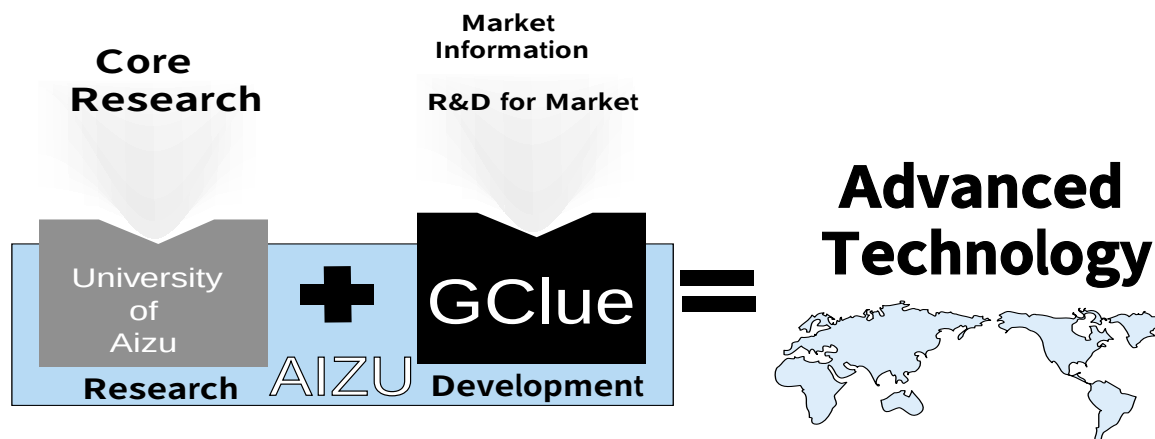
産学イノベーションセンター研究開発室から

経営理念

AIZU発、最先端の技術を世界へ。

会津大学をコアとした高度な人材と技術をベースに、来たるユビキタス社会において、世界に通用する技術の確立を目指します。

日本が世界をリードする携帯電話業界では、日本で確立された技術が世界初の技術になります。会津大学で行われている最先端の研究と、ジークルーの持つ最新の技術と情報を組み合わせる事で、世界に通用する技術を、AIZUの地から世界へ向けて発信していこうと考えています。



社名の由来

GClueという社名の由来は「Get **Clue** of the Information」からきています。クルーというと船などの乗務員を想像する方が多いかと思いますが、弊社のClueは「(解決などの)手がかりを与える。」という意味です。携帯電話や情報家電のように、なんらかの手がかりがないと目的のデータに辿り着けないような端末向けに、「情報の手がかり」を提供していく会社になろうと思い、命名しました。

研究開発

平成14年4月より、会津大学産学イノベーションセンターに研究所を開設しました。これにより、会津大学研究室と地元ITベンチャー企業と協力し、AIZU発の技術を確立すべく研究開発が本格的に始動しました。

本年度は、会津大学との共同研究として、第3世代携帯電話を遠隔医療へ応用するための研究を行っています。

また、地元企業と共同で、今後様々な面での応用が期待される、第3世代携帯電話と赤外線通信、Javaアプリケーションの3つを連動させたセキュリティシステムの研究開発も進めており、今年中に研究成果を商品化する予定です。研究の成果は、AIZU発の技術として、いち早くマーケットに提供していく考えです。

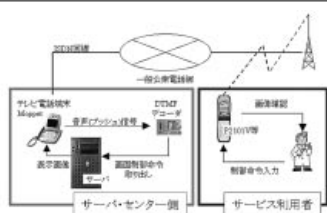
会津大学との共同研究

会津大学とは、福島県の知的クラスタープロジェクトで、携帯電話と遠隔医療をテーマに研究開発を行っています。

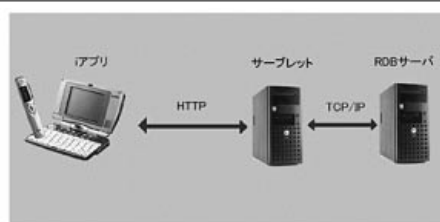
会津大学 魏大名研究室

ホームケアサービス支援システム/ホームケア業務用iアプリの開発
(福島県知的クラスタープロジェクト)

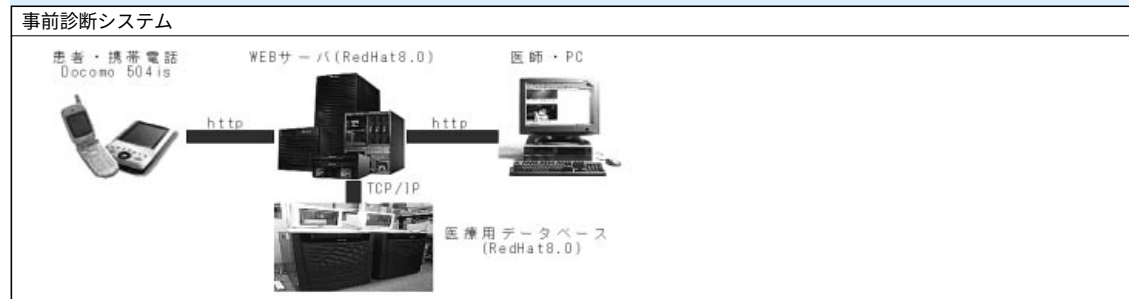
携帯テレビ電話への画像転送技術と、テレビ電話経由でのサーバの制御技術



ホームケア業務支援iアプリ



携帯電話を用いた、医師と患者間のコミュニケーションシステムの開発
(福島県知的クラスタープロジェクト)



共同研究開発

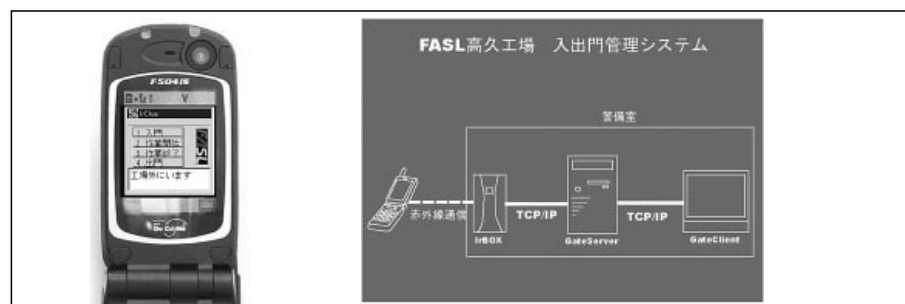
携帯電話と赤外線通信を用いたセキュリティシステム

現在、Flashメモリーでトップシェアを誇る富士通AMDセミコンダクタ様と喜多方にあるメカトロのプロ、メカテック様と共同で携帯電話と赤外線通信を用いた研究開発を行っています。富士通AMDセミコンダクタ様には、ボランティアで参加してもらい会津発の研究開発の支援をしていただいています。

ポケットに入っているものは、最終的に携帯電話の中に収まるといわれており、それを実現する最有力技術が赤外線通信です。

国内では、携帯電話での赤外線通信は、NTTドコモ社の504iシリーズより標準で搭載されるようになりました。2002年で500万台、2006年には4300万台(全携帯の約50%)に赤外線が搭載されると言われています。この赤外線通信とJavaと携帯電話を連動することで、セキュリティに強い認証が可能になり、お店の会計で使用するレジと連動させて、携帯電話をキャッシュカードとして使用することができるようになりました。

弊社では、UBIC内の研究室にてこのような、携帯電話とそれに付属した赤外線通信とJavaアプリケーションを使用したセキュリティシステムの研究開発をおこなっています。その成果を、開発ベンダー向けのAPIとミドルウェアとして、今年の秋から冬にかけて本格的な開発を行い、商品化する予定です。



世界初となる富士通AMDセミコンダクタ社高久工場向け入門管理システムの試験導入

今後は、携帯電話業界で、オンリーワンの技術を確認できるようUBIC内の研究室を中心に携帯電話向けアプリケーションの研究開発を行っていく予定です。UBICにいらしたときは、第4研究室にぜひともお立ちください。



オフィス風景

センターでは、下記の講習会を開催します。

1.産学イノベーションセンター講習会

Javaプログラミング入門

◆日 時：平成15年8月6日、7日、8日 3日間コース、各日とも10:00～16:00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

〈概 要〉

Javaを通して、プログラミングの基礎を習得します。

Javaの特長及びJavaプログラミングの基礎を理解し、Java2 SDKのセットアップからJavaプログラムを実行するまでの一連の流れを学び、実際に簡易なJavaプログラムを作成します。

〈内 容〉

- ・プログラミングとは（概要説明）・Java言語の特長（概要説明）・プログラミング環境（Java2 SDK）
- ・Javaアプリケーションプログラミング・Javaアプレットプログラミング・演習（簡易なプログラム作成）

◆受講料：3,000円 ◆定員：20名 ◆申込期限：平成15年7月4日 必着

3DCG作成セミナー Shade

◆日 時：平成15年9月2日、3日、4日、5日 4日間コース、各日とも10:00～16:00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

〈概 要〉

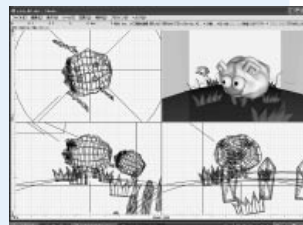
3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)作成ツール「Shade」を使用して、簡易なCG映像制作技術を習得します。

基本的な操作法を学び、実際にコンテンツを作成します。

〈内 容〉

- ・CGとは（概要説明）・3DCGの特長（概要説明）・モデリング（オブジェクトの作成）
- ・サーフェイス（反射や色の設定）・レンダリング（画像生成処理）・演習（コンテンツ制作）

◆受講料：4,000円 ◆定員：20名 ◆申込期限：平成15年8月1日 必着



イントラネット基礎セミナー

◆日 時：平成15年9月24日、25日、26日 3日間コース、各日とも10:00～16:00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

〈概 要〉

イントラネット構築のためのLAN等の基礎技術を習得します。

ネットワーク技術や各種サーバの役割を学びます。

〈内 容〉

イントラネットとは ・イントラネット ・グループウェア

LANの基礎技術 ・構成機器 ・その役割 ・LANの仕組み

各種サーバの役割 ・メールサーバ ・Webサーバ ・ネームサーバ

LANの管理と運用 ・システム管理 ・ネットワーク管理 ・データ管理

◆受講料：3,000円 ◆定員：20名 ◆申込期限：平成15年8月22日 必着

2.ワンデー・トライアル

◆日 時：平成15年8月21日、10月12日、10月13日 各日とも10:00～16:00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

〈概 要〉

日ごろから、産学イノベーションセンターのシステムを使ってみたいとお考えの方、使ってみたいが使い方がわからないという方を対象に、センターのシステムの1日体験ができるという内容です。

- ・3DCGコース Shadeを使って、3次元コンピュータグラフィックス作成を体験できます。
 - ・デジタルビデオ編集コース Premiereを使って、デジタルビデオから取り込んだ映像の編集ができます。
 - ・デジタルカメラ編集コース Photoshopを使って、デジタルカメラから取り込んだ画像を編集できます。
 - ・ホームページ作成編集コース ホームページビルダーを使って、ホームページを作成する一連の流れを体験できます。
- などを予定しております。

◆受講料：無料 ◆定員：未定 ◆申込期限：未定

※詳細につきましては、決定次第、別途お知らせします。

会津大学産学イノベーションセンター UBIC INFORMATION 活動報告

産学連携フォーラム

会津大学の研究内容の紹介や交流会を通じ、産学連携の一層の推進を図るため、定期的に産学連携フォーラムを開催しております。今年度は9回開催しました。以下に、講演テーマを紹介します。

- 10月 「会津大学産学イノベーションセンターが目指すもの」 角山茂章教授（第1回）
「産学連携の新しい姿」 杉八合勲客員教授（第1回）
- 11月 「無線を利用した医療看護システム」 魏大名教授（第2回）
「仮想遺産デジタル保管システム」 カール・ビルブラント助教授（第2回）
「漆の光変化の三次元グラフィクス」 ロマン・デュリコビッチ講師（第2回）
「モーションキャプチャー利用の会津伝統芸能DVD」 ㈲あいづ・ジャパン（第2回）
「モバイルJAVA概論～ユビキタス社会実現に向けて」 イーバレー(株)（第3回）
「ベンチャー企業経営」 イーバレー(株)（第3回）
- 12月 「胃カメラ開発に見る産学連携について」 オリンパス光学工業(株)（第4回）
「携帯電話による生体モニタリングと健康管理システムの開発」 陳文西講師（第4回）
「科学技術振興事業団の研究戦略と技術移転について」 科学技術振興事業団（第5回）
- 2月 「漆の光変化による色彩変化に関するコンピュータグラフィック」 ロマン・デュリコビッチ講師（第6回）
「ITビジネスの実践」 ㈱グローバルニュークリアフエエルジャパン（第7回）
「東芝の研究開発と産学連携」 ㈱東芝（第7回）
「心臓のPhysiome～工学と医学の融合」 魏大名教授（第8回）
- 3月 「インターネットの過去・現在・未来」 加羅淳教授（第9回）

平成15年度も定期的に開催する予定です。



会津大学産学イノベーションセンター臨時開館

10月12日、13日の両日、会津大学祭に合わせて、産学イノベーションセンターを臨時開館しました。親子連れを中心に多くの方が集まり、デジタルカメラやデジタルビデオなどの映像を編集するコーナーでは、実際に撮影した映像を加工してアルバムを製作していました。来館者は最新のコンピュータ技術に触れ、有意義な一日を過ごしていました。



イントラネット基礎セミナー

1月29日～31日まで、3日間のコースで、イントラネット基礎セミナーが行われました。県内外の会社員ら約20人がイントラネット構築のためのLANなどの基礎技術を学びました。

受講者は、システム管理やネットワーク管理、データ管理の運用について熱心に学習していました。



編集後記

会津大学産学イノベーションセンターは、地域・企業と大学の架け橋となるべく、産学連携の拠点としての機能を大幅に強化し、平成14年4月にリニューアルオープンしました。産学連携に対する期待が益々高まる中、スタッフ一同、一丸となって日々努力しております。

ニューズレターもようやく第1刊を発行することができました。今後さらに内容を充実させて、皆様に様々な情報をお伝えしたいと思います。ご意見・ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。今後ともよろしくお願い致します。